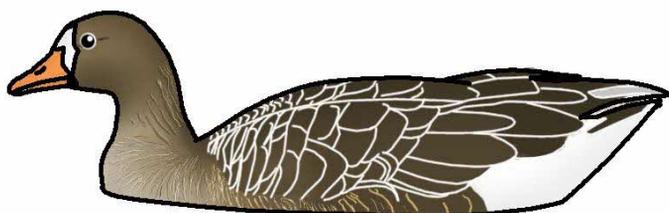


ウトナイ湖のガンの仲間たち

ウトナイ湖には、毎年50,000羽ものガンたちがやってきます。それぞれの見分け方について見てみましょう。

マガン



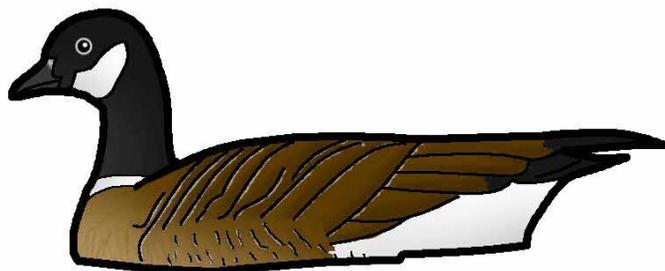
ウトナイ湖へやってくるガンたちの中で一番たくさんやってきます。多いときには50,000羽もの群れになることも。くちばしのオレンジ色とつけねの白色が目印。ウトナイ湖をねぐら（ねるところ）にして、昼間は近くの田んぼで落ち穂などを食べています。「カハハン、カハハン」と賑やかに鳴きます。秋は9～12月にやってきて、春は2～4月にやってきます。国の天然記念物。

ヒシクイ

マガンより大きなガンの仲間。“ヒシ”という水草を食べるので、“ヒシクイ”。他にも、マコモや田んぼの落ち穂を食べます。くちばしの、黒色と先のオレンジ色が目印。マガンより低い声で「ガハハン、ガハハン」と鳴きます。秋には、繁殖地のカムチャツカから飛んできて、越冬地の本州へ渡っていきます。春には、カムチャツカへ渡る途中に立ち寄ります。国の天然記念物。



シジュウカラガン



マガンより少し小さなガンの仲間。黒い頭に白いほおが目印。マガンの群れに数羽だけ混じってやってくることがあるので、よく観ると発見できるかも！千島列島からアリューシャン列島で繁殖しています。図鑑によっては、カナダガンと紹介しているものもあります。これは、英名のカナダグースから来た呼び方です。

マガン・ヒシクイのこんなところを見てみよう

マガンとヒシクイを見分けてみよう

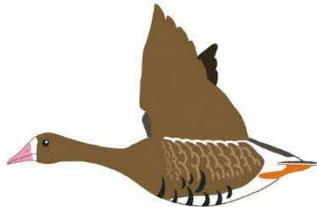
みなさん、ガンの仲間は皆一緒と思いませんか？実はガンには様々な種類がいるのです。ウトナイ湖には“マガン”と、ヒシクイの仲間の“亜種オオヒシクイ（以下、オオヒシクイ）”が主にやってきます。それでは、マガンとオオヒシクイを見分けてみましょう。

※亜種＝種を細分化した分類学上の単位

まず、大きさの違いに注目。マガンはくちばしの先から尾までの長さが70cmくらい、一方、オオヒシクイは85cmくらいあり、一回り大きく見えます。

次に、くちばしに注目。マガンはオレンジ色でつけねが白色。オオヒシクイは黒色で先がオレンジ色。マガンのオレンジ色は、遠くからでも見えますので探してみましょう！

群れでV字になって飛んでいるときには、お腹に注目。マガンのお腹には黒いはん点があります。オオヒシクイには黒いはん点がありません。



マガン



オオヒシクイ

ガンたちのねぐら

ガンたちは、昼にはまわりの田畑で落ち穂などを食べています。日が沈む頃になると、ねぐらのウトナイ湖をめざして、たくさんの群れをつくり集合してきます。安心して休めるウトナイ湖で夜を過ごし、日の出とともにエサ場へと、一斉に飛んでいきます。たくさんの群れが飛ぶと、空が黒くなるほど。



ガンたちはどこからやってくる？

渡りをするマガンやヒシクイは、ウトナイ湖を中継地として、子育てをするシベリアと冬を越す日本の本州とを行き来しています。マガンは、繁殖地のシベリアから美唄市の宮島沼やウトナイ湖を中継し、宮城県の伊豆沼や新潟県の福島潟などで越冬します。オオヒシクイは、繁殖地のカムチャツカ半島から道北のサロベツ原野やウトナイ湖を中継し、石川県の片野鴨池や福島潟などで越冬します。春になると、それぞれ同じルートを通って、繁殖地へ戻って行きます。種類によって渡りのルートや越冬地が違います。

